

## 「グローバリゼーション」と 「グローバルスタンダード」

今日、「グローバリゼーション」、「グローバルスタンダード」という言葉は世界の経済、政治、文化に至る様々な分野の21世紀像を語るためのキーワードの一つとして用いられている。「グローバリゼーション」という言葉は元々、1980年代の経済分野から発せられた言葉であるという。1983年、『Washington Post』の自動車産業の国際競争を報じた記事に「グローバリゼーション」という言葉が出て、1985年の同誌では金融・市場経済の世界的つながりを表し、1987年の『Financial Times』では多国籍企業の経済戦略を指すようになった。しかし、物や財、人が国境を越えて流動化した結果、形をなさない情報やアイデアや倫理、疾病など、経済とは直接関係しない領域の事柄も国境を越えて世界規模で広がることになり、現在では様々な分野での世界規模での動きが「グローバリゼーション」と解されていると思う。

一方、「グローバルスタンダード」とは多くは世界規模の市場的優位を占めた企業の製品・技術・システムという、いわゆるデファクトスタンダード(事実上の標準)である。また、このスタンダードは自由競争と市場原理に貫かれ、勝者を称え富を築くことを国是としてきた米国のアメリカンスタンダードでもある。日本の多くの企業にはこれまでの日本的スタンダードを棄て、海外からのいわゆる成功したシステム・常識を世界標準として取り入れることが自らの再生の鍵であるという「グローバルスタンダード化」信仰が起っているように思う。

では、このような「グローバリゼーション」が進む世界の中にあって、医学・医療の分野で日本が自らのアイデンティティーを確立するためには何をすべきであろうか。

医学においては遺伝子レベル、分子レベルから病態解明がなされ、バイオテクノロジーの発展は再生医学、臓器移植、遺伝子治療などの高度な医療開発をもたらしている。その多くは、米国の民間機関と私立大学との密接な連携による自由競争と商業化に

よってなされたものである。日本の国立大学法人化を推進する意見には、このような成功システムの導入こそが日本の医学・医療の発展の鍵であるという論理があると思う。しかし、このアメリカンスタンダードが成功した陰には、米国の国家的支援があったからではなかろうか。日本発のスタンダードを国家的なプロジェクトとして世界に示さなければ、かつて日本独自に個々に開発されたものの、現在では殆どのシェアを奪われている人工関節インプラントのように衰退してしまうのではないだろうか。

一方、高齢化に伴う医療費の増大と、経済の沈滞による財源の逼迫の中、他国の「グローバルスタンダード」(平均在院日数の短縮化、病床数の削減)などの観点から、日本医療の改革の方向が導き出されようとしている。確かに医療経済的観点からの効率化は図られるべきであるが、日本医療の中心理念である患者本位の姿勢は忘れてはならないはずである。このために学ぶべき他国の医療教育システムや診断・治療連携システムはあるが、「グローバルスタンダード」と呼ばれる医療システムを無批判に導入するならば、日本医療の良い面を失う恐れはないのであろうか。

さらに、国内の問題だけでなくアジア近隣諸国を含めた国の枠組みを超えるような問題解決のためにも、日本の医学・医療の「グローバリゼーション」は必要であろう。しかし、私達が模索すべきは強者をより強大にさせ、弱者を叩くスタンダードではないはずである。先達は仁・義・礼・智を尊び、世界に類をみない洗練された文化を私達に遺してくれた。CNNの中継による世界貿易センタービルが崩壊した光景は、「グローバルスタンダード」を振りかざし世界的勝者となった者に対する一撃とみるのは偏った見方であろうか。イラクへの査察報道の中、日本の医学・医療の「グローバリゼーション」と「グローバルスタンダード」は何かと考え悩んでいる。

(島根医科大学整形外科教授・内尾 祐司)